

熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村別データベース(天草郡)

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合先	祈願
1	天草郡	苓北町志岐	志岐八幡宮獅子舞			2月17日 10月15日	志岐八幡宮	200年以上の歴史のある苓北町の志岐八幡風例大祭の神幸行列が18日あり、舞を披露。【2009.10.19熊日】 《構成》獅子2頭(2人立)、玉振り2人、大太鼓1、締め太鼓2、鉦2、笛数名。【1991】				
2	天草郡	苓北町志岐	志岐八幡宮太鼓踊り			2月17日 10月15日	志岐八幡宮	《特色》踊り手6~10人が踊りながら順々に太鼓を打つ。【1991】	【伝統芸能】 風流芸			
3	天草郡	苓北町上津深江	伊耶那伎神社例大祭			10月第3日	伊耶那伎神社	《特色》神幸行列が行われ、鳥毛の奴踊り、獅子舞い、太鼓踊りが演じられる。【1991】	祭礼 (神社行事)			
4	天草郡	苓北町都呂々	都呂々神社奉納太鼓、獅子舞			3月第3日 曜 10月第2日 曜	都呂々神社	《構成》大太鼓2、小太鼓1、獅子1(2人立)笛10。《特色》小太鼓、笛に合わせて大太鼓打ちが踊り、そのすぐ後、獅子が大太鼓に合わせて踊る。【1991】	祭礼 (神社行事)			
5	天草郡	苓北町富岡	富岡シャギリ			3月21日 初午	富岡稲荷神社	400年以上の歴史を持つ初午大祭。住民が地区ごとに伝統芸能を披露する。祭りは、江戸時代に起きた火災をきっかけに始まったとされ、無病息災や五穀豊穡を祈る。地区ごとに伝わる出し物を毎年持ち回りで披露。お囃子の「シャギリ」も奉納され、多くの見物客でにぎわう。【2010.3.19熊日】 笛・太鼓・三味線・銅鑼・鉦で演奏し、時代色豊かに町を練り歩く。【1976】				
6	天草郡	苓北町富岡	富岡ホックリ飴					【1976】				
7	天草郡	苓北町上津深江	裸祭り	はだかまつり		1月20日	上津深江八坂神社	さらし姿の男衆が神輿を担いで海を渡る恒例の裸祭り。祭りは約400年前、同地区を疫病が襲ったときに、病魔を退散させるため山伏が海に入ってみそぎをしたのが始まり、とされている。神社で神事を済ませた男衆29人は、約150キロの朱塗りの神輿を担ぎ、「ヨイヤ、ヨイヤ」のかけ声とともに上津深江港近くの堤防から海に入る。ほら貝を持った男衆が海岸から先導する中、約300メートル泳いだ。毎年「大寒」時期の1月20日に行っており、例年寒風や雪などの悪天候が多いが、今回は無風快晴の穏やかな天候。陸に上がった男衆は、そのまま約80軒の氏子宅を訪問。氏子たちは神輿になますを乗せ、その上からお神酒をかけて無病息災を祈る。【2007.1.21.熊日】				無病息災
8	天草郡	芦北町花岡東	子ども獅子舞	こどもししまい		1月1日	佐敷諏訪神社	同地区に住む佐敷小6年生女子4人が地区の老人介護施設で初舞を披露。獅子舞は江戸末期頃始まったとされる。明治時代に地区が東と西に分かれた後、それぞれが保存会を結成し、元日に佐敷諏訪神社に奉納。子ども用の獅子頭は6年前に作ったが、舞をしたがる子供がおらず、一度披露された後は途絶えていた。舞を見た小学生が面白そうと仲間を集め大人に弟子入り練習を始めた。4人は雄獅子、雌獅子の前後を務め、獅子を誘導する玉つり、玉を置く三宝と、合わせて6人一組。【2008.12.23熊日】				
9	天草郡	苓北町富岡	川舟	かわふね		3月21日 初午	富岡稲荷神社	400年以上の歴史を持つ初午大祭。住民が地区ごとに伝統芸能を披露する。祭りは、江戸時代に起きた火災をきっかけに始まったとされ、無病息災や五穀豊穡を祈る。地区ごとに伝わる出し物を毎年持ち回りで披露。出し物の1つ川舟は、1丁目と元楽地区が担当。漁師役の子どもたちが、車輪の付いた舟に乗って網を投げ、漁の様子を再現する。80年近く途絶えていたが、1996年に復活した。17日夜の練習では、全長約4mの木の舟に乗った子どもたちが「ヨイヨーセ」と声を上げながら太鼓や鐘を打ち鳴らした。【2010.3.19熊日】				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
10	天草郡	芦北町佐敷城跡	観月会	かんげつかい		9月21日夜	国史跡佐敷城跡二の丸広場	芦北町の国史跡・佐敷城跡二の丸広場で観月会(茶北町主催)があった。約300人が訪れ、満月から少しだけ欠けた月を見上げながら、薪能などを楽しんだ。今年で16回目。午後6時、芦北鉄砲隊の演技や雅楽演奏で始まり、かがり火が夕間に揺れる中、狂言みのる会が狂言「因幡堂」、喜多流喜秀会が能「野守」を演じた。最後に国史跡指定5周年を記念した花火が打ち上げられた。佐敷城跡は高台にあるため、訪れた人たちは目の高さで花火を見ることになり、歓声が上がっていた。【2013.9.28毎日】				